

うつ か きゅうせつ き おおぞら い せき さつないエヌ い せき
移り変わっていく旧石器の文化 ... 大空遺跡から札内N遺跡へ

およそ1万6千年前の「**曉遺跡（帯広市）**」からは、**細石刃核（細石刃をけずり出す前の石器）**は見つかりましたが、**有舌尖頭器**は見つかりませんでした（ p79）。

それよりあとの「**大空遺跡（帯広市）**」からは、**細石刃核**と、**有舌尖頭器**が**いっしょ**に見つかりました。

およそ1万3千年前の「**札内N遺跡（幕別町字依田）**」では、**大小の有舌尖頭器**はありましたが、**細石刃**は見つかりません。

細石刃を使う文化から、**有舌尖頭器**を使う文化へ移る間に、**両方とも使う文化**があったようです。

大空遺跡の旧石器は**帯広百年記念館**で、また**札内N遺跡**の旧石器は**幕別町ふるさと館**で見ることができます。



大空遺跡(帯広市)では、**細石刃核(左)**と**有舌尖頭器(右)**が**いっしょ**に見つかった。
 (写真:帯広百年記念館埋蔵文化財センター蔵: 2)



大空遺跡(帯広市空港南町南10線・南の森西)と帯広百年記念館(帯広市緑ヶ丘2番地)の位置。



札内N遺跡の位置。幕別町字依田。



幕別町ふるさと館の位置。幕別町字依田384(依田公園横)。

炭や花粉でわかる木の種類 ... 昔の環境を知るために

木の種類によって、寒いところに生えるものもあれば、暖かいところに生えるものもあります。昔生えていた木の種類がわかれば、そのころの気候がわかります。

それでは、昔生えていた木の種類はどうやってわかるのでしょうか。

答えは、たき火のあとと花粉の化石です。

木もふくめて、ほとんどの生き物は死ぬとくさって(分解されて)土にかえります。

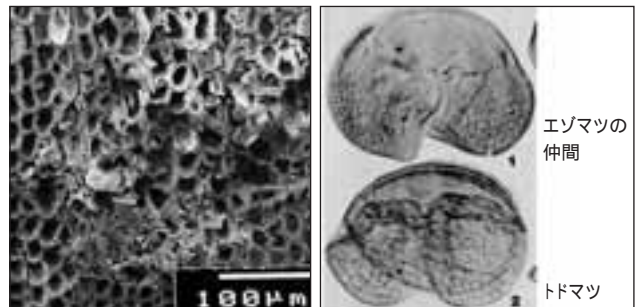
ところが、たき火に使われて炭になったものは、くさらずに残ります。およそ2万年以上前の**若葉の森遺跡**や**南町2遺跡（帯広市）**からは、**ハイマツ**（ p62）や**グイマツ**、**トドマツの仲間**や**エゾマツの仲間**の炭が見つかりため、このころがとても寒かったことがわかります。

また、多くの花粉は、中身がくさっても外側の膜がとてもくさりにくいで、長い間(数千万年も)残り化石となります。この膜の形を調べることで、どんな種類の植物が

生えていたかがわかります。(化石 p21)

とくにしめったところでは、ものがくさりにくくなります。そこで、**湿原の土**である**泥炭**に長いつつをねじこんで、土ごとそのつつをひきあげる「**ボーリング調査**」をすると、上から新しい順番に昔の花粉を見つけることができます。

それによって、その湿原周辺の昔の自然環境が、順々にわかっていくのです。



若葉の森遺跡(帯広市)で見つかったエゾマツ類の炭。(3) 200µm
 曉遺跡(帯広市)で見つかった花粉。(350倍)

(写真:帯広百年記念館埋蔵文化財センター蔵)

2 帯広百年記念館埋蔵文化財センター(おびひろひゃくねんきねんかんまいぞうぶんがさいセンター):帯広市西23条南4丁目26-8 電話 0155-41-8731 日・月曜日休館

3 µm(マイクロメートル):長さの単位で、1mmの千分の1。